

# ひなたぼっ「通信」

2017年  
2月号

## グループホームから

「書き初め」 1F

GH1Fでは1月にご利用者様と一緒に書き初めを行いました。「何か書きたい字などありますか?」と伺うと、「夢…夢を書きたい!」と元氣よく答えて下さいました。書き始めるとお手本の字を見ながらあっという間に書き終えました。「私は字が下手だで書かなくていいよ」と遠慮されている方も職員と一緒に、筆ペンで名前等を書いて下さいました。

他にも酉年ということ  
で「酉」という字など  
30分程で10枚程書  
きました。「よく書き慣  
れているからか名前が  
一番上手いですね」と  
言うのと「本当にそうだ  
ねえ」と笑われていま  
した。字を書くのは得  
意だとおっしゃって  
いた方もそうでない方も  
書き終えると「あく楽  
しかった」と久々の習  
字を皆様楽しんで下さ  
った様子でした。



## 「カルタ会」 2F

2017年の朝が明けぬ頃から、「紅白、どっちが勝った?」と、ご利用者の皆様の問いかけがありました。「紅白」は年越しの風物詩…。心のなかにいつまでも残っておられるのだと思いました。そして元日を祝う「お膳」をご用意させて頂きました。お膳の担当は今回が初めてです…。皆様の「新年の門出を飾るお膳」です!大切なことですので、年末からヴェテラン職員の指導のもと「不備はあつてはならぬ!」とトレーニングを重ねました。その甲斐がありまして、ご利用者の皆様から及第点をいただくことができました。

そして、朝食後は、お正月恒例の「カルタ会」をしました。「ことわざカルタ・百人一首・トランプ・お札」札をたくさん取る方、少しの方、違いはありますが、「新年を迎えるということ」は、いつになられても大切なことなのでしょう。皆様お元氣で力強く取られました。日頃、こうした催しに加われない方もごいっしょされるなど、明るい年明けを迎えることができました。

ほんとうに、スタッフ一同、感謝、喜びの一語です!本年もよろしく願っています。

## ケアハウスから

「日本の心、祭りと行事」1F

去る一月十二日、ケアハウスでどんど焼きが行われました。よく焼けたお餅を晴れやかな顔で召し上がっていた参加者の皆さま。楽しい一日でした。

どんど焼きは、小正月の一月十五日、お正月飾

りや書初めなどを持ち寄って燃やす行事です。そしてこの行事は歳神様を送る火祭りなので、若返りの効果があり、火で焼いた餅やお団子を食べると一年を健康に過ごせることされています。

いにしへの平安時代から脈々と受け継がれ、日本全国で行われる、この伝統行事をこれからも大切にしたいです。

最後に、今年も利用者の皆さまが健康で心安らかに毎日を過ごされますよう、祈念致します。K



## 「ヘルパー合格!」 2F

新しい年になりました。ケアハウスの2階では新人職員の2名がヘルパーに合格しました。昨年の秋から冬の4か月、仕事をしながら土日を返上しての勉強の結果の合格です。

利用者さんからは「頑張ってたね!」の言葉をいただいて、とても励みになりました。

これも先輩の職員から、ひとつひとつ時間をかけていてねいに教えていただいたおかげです。

これからも利用者さんのために頑張っていこう  
と思っていますので、どうぞよろしくお願いま  
す。Y

みなさんのお  
かけです！



### 宅幼老所から

「餅つき」

毎年の恒例行事として、宅幼老所とグループホ  
ーム合同で12月の終わりに餅つきを行いました。  
利用者様は室内から窓の外の餅つきの様子を眺め  
られたり、外に出られる方もいらっしやったりし  
て、年末の雰囲気を感じられました。

つきたてのお餅は大根たっぷりの中からみ餅と、  
あんこ餅にし、お昼ご飯の一品として利用者のみ  
なさまに、おいしく召し上がっていただきました。  
利用者様の中には「久しぶりに食べたよ。おいし  
かった!」と、とても感動されている方もいら  
っしやいました。

( 利用者様の文芸 作詞の巻 )

真田節 作詞 那須弘

1. 千曲の流れ 水速く

太郎の山が後盾

健固の上田 城築き

六文銭の旗高く 旗高く

2. 天下分け目の 大戦

西軍攻めの 道すがら

徳川勢が 押し寄せる

立ちはだかるは 真田父子 真田父子

3. 智将昌幸 策多く

負けると見せて 引き寄せる

秀忠軍は 釘付けに

関ヶ原には 間に合わず 間に合わず

4. 西方敗れ 城渡し

封じられたる 九度山で

父の意思継ぎ 大阪へ

幸村名乗り 大手柄 大手柄

5. 和睦の罫に はまりこみ

大阪城は 堀埋まる

防く術なき 真田丸

最後の武勲 名を残す 名を残す

生活何でも相談会 (送迎します!)

2月15日(水) 3月15日(水)

午後2時半~3時半 ひなたぼっこ本部にて

連絡 61-2355 (森)



作詞者の那須弘様は上田城下(しろした)小学  
校出身のひなたぼっこ宅幼老所の利用者様です。  
真田十勇士を読まれたりして、大変歴史に興味が  
ある方で、テレビで放送していた真田丸の内容と  
ご自分が習ってこられた歴史の内容に違いがある  
ことに気付き、今回ご自身の歴史の知識をもとに  
この詩を作詞されました。武田節のメロディで・



発行 社会福祉法人ひなたぼっこ

理事長 森 正明

〒399-0211

富士見町富士見11650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336